

# チームけせんの和 だより

2014  
vol.1

発行 チームけせんの和

〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字鳴石42-5 TEL 0192-54-2111 FAX 0192-55-6118



## 在宅療養を支える会（チームけせんの和）

### 再出発にあたって

会長 石木 幹人

思い返すと、2011年2月26日、気仙地域全体で在宅療養を支える機運を作ろうということで、発足に向けた記念講演会を行ったのでした。しかし2週間後の3月11日被災しました。私は12日にヘリで救出されましたが、空から壊滅状態にある陸前高田市を見て、医療・介護・福祉が完全に崩壊したことを確認しました。「医療の早期復旧」を目標に立て直しを行うと同時に、介護・福祉の復旧も目指す必要を感じていました。被災後数日して、米崎コミセンに、医療・介護・福祉関係のボランティア募集の張り紙をしましたが、思うような人が集まりませんでした。関係者の多くが被災し、被災から免れた人たちも、人員の大幅な減少から、生活、仕事の立て直しが大変だったのでした。被災から2年、ようやくこの会の再建の話が出て、25年度から正式に発足となりました。

被災する前から、高齢者の医療・介護が待たなしの状況にあることから、在宅療養を支えることが必要だと考えていましたが、被災後、被災高齢者の状況を間近に見るようになり、さらに重要性が増していると実感しています。被災した人たちは、生活環境が激変し、認知症の顕在化や、ストレスに伴う、周辺症状の悪化が見られますし、生活不活発病と考えられる、ADLの低下がみられます。被災しなかった人たちについても、被災しないといっても、当初は全住民が震災への対応に追われ、正常な生活に戻るのに数か月以上かかったことを考えると、特に介護が必要な高齢者にとっては、被災者と同じくらいのストレスが加わったと考えられます。高齢化の問題は、震災により一挙に顕在化した感があります。これに対応するためには、各職種が、今後の高齢化に対する対策を立てて勉強し、社会に還元していく必要があります。たとえば、介護がいない健康寿命を延ばすためには、食生活の改善や、日頃の活動量の増加など、栄養士や療法士がそこまで踏み込んだ活動をしていく必要があります。

チームけせんの和は、高齢化社会に対応できる、介護予防や健康増進も視野に入れた活動を展開していきたいと考えますのでよろしくお願いします。





## 「チームけせんの和」が立ち上がって

医療法人勝久会 高田施設看護部長 入 澤 美紀子

あれから3年が過ぎました。震災前の2月の交流会ではいろいろな専門職の方々との顔の見える繋がりに、大きな期待と感動を覚えたものでした。それから間もなくあの未曾有の大震災が起こり、誰もがこの世のものとは思えない、悪夢を見ているような壊滅状態の高田に「これからいったいどうなっていくんだろう」と何も考えられなくなりました。目の前の問題を一つずつ解決していくために、多くの方々のご支援をいただいて今日があるのだといつも思っています。

2012年8月から松原クリニック内に「訪問診療部」を立ち上げ、延べ120人の方を訪問し、1年半で24人の方を在宅で看取りました。高田病院は勿論、大船渡病院との連携もできてきました。ある患者様のご家族から手紙が届きました。少し紹介いたします。逆流性食道炎で食べることが怖くなった80代の女性が、精神科の分野だと言われ、薬を増やせばいいことだと言われながらの生活が続いていた中で相談され、訪問をすることになりました。

(中略)先生の「苦しかったでしょう。大丈夫治るからね。点滴なんかしなくても大丈夫だよ」のあの言葉。母はあの言葉で立ち直れたんだと思います。我が家にこういう生活に戻るなんて思ってもいませんでしたので本当に感謝の毎日です。高度な医療を地域医療に求めているわけではありません。温かい医療を求めていることは気仙に住んでいる私たちにだって許されるはずですよ。(後略)

この方は、初回訪問時にはベッドから介助なしでは起き上がれませんでした。今は石段のある自宅から隣の家までお茶を飲みに行けるようになりました。まさにこれが私たちのやろうとしていることだと思っています。これからも地域の専門職の皆さんと、顔が見えて何でも相談できる関係を築きながら、必要としている一人でも多くの方々が在宅で過ごすことができるよう「チームけせんの和」の繋がりを大切に、地域から信頼される訪問診療部を目指していきます。今後ともよろしくお願いいたします。

### ① チームけせんの和 活動報告



#### ① H24年11月28日

長野県諏訪中央病院名誉院長の鎌田實先生がボランティアで講演され、「そろそろ集まらないか？」というきっかけになりました。懇親会も大いに盛り上がりました。

#### ② H25年2月9日

陸前高田の在宅療養を支える会 設立総会(55名参加)  
震災直前に計画していた多職種協働の会が、2年後にやっと立ち上がり、「チームけせんの和」という通称も決まりました。



#### ③ H25年2月9日

設立記念講演会「住民と語り合う医療」

一関市病院事業管理者 佐藤元美先生(56名参加)



「なぜ受診や検査をしなければならぬか」

「なぜ病気は治療より予防が大事なのか」

地域の中で住民と医療者が緊張感なく語り合い、仲良くやっていくことが地域包括ケアの基本であり豊かな地域社会には地元の人とよそから来た人がお互い知恵を出し合い、対立しないことが大切だと学びました。

#### ④H 25年7月4日

##### 25年度総会と第1回研修会（69名参加）

「県立高田病院の未来図～継続可能な医療体制の構築」県立高田病院院長 田端 潔 先生  
高田地域の医療拠点や、大船渡病院の後方支援病院として特色ある地域連携をするとともに、若い医療者にも魅力的な病院づくりをしていきたいと、心強いお話をいただきました。

その後の懇親会は48名の参加があり、和気あいあいとした雰囲気でした。

#### ⑤H 25年8月22日

##### 第2回研修会（59名参加）

・気仙中央薬局高田店大坂薬剤師から、高齢者の薬物療法の特性や在宅での問題点、薬剤師としての工夫や対応について話されました。

・市健康推進課山内保健師から、第3回健康生活調査についての結果や「はまってけらいん、かだってけらいん運動」の推進について話されました。

・高寿園 熊谷ケアマネジャーから、事故による頸椎損傷の方への訪問リハビリや訪問看護、訪問診療での対応・連携について話されました。



#### ⑥H 25年12月19日

##### 第3回研修会（58名参加）

・吉田歯科医院 吉田先生から、在宅での歯科的な問題に対する口腔や義歯のケア、訪問歯科診療について、たくさんの画像を用いて話されました。

・高田病院 鈴木看護師から、避難所から始まった震災後の活動や訪問診療の実際、今後の方向性について話されました。

・あらや訪問リハビリステーション 池理学療法士から、訪問リハビリの取り組みについて話され、折り畳みベッドも持参して会場の参加者全員で体を動かしました。



#### ⑦H 26年1月23日

##### 新年交流会（55名参加）

・たくさんの参加者で会場が熱気に包まれました。顔が見える関係が広がっています。

#### ⑧H 26年2月27日

##### 第4回研修会（63名参加）

##### 「口腔機能と栄養～多職種協働で効果的に取り組む～」

##### 国保衣川歯科診療所所長 佐々木 勝 忠 先生

廃用症候群と低栄養によって、高齢者は容易に寝たきりになる。適切な義歯の装着や清潔、なるべく普通食に近づける。食形態が低下すると、腸管粘膜が委縮し、栄養の吸収が極端に低下する。

老人ホーム等でしっかり口腔や栄養を管理し普通食にした結果、歩行ができるようになり、生きる喜びやリハビリへの意欲が向上した事例が多数紹介されました。

地域での連携構築には、多職種が互いに学び合い、情報を共有することが大切であると学びました。





## チームけせんの和に寄せて

そうごう薬局高田店薬局長 白井秀徳

陸前高田へ転勤となり約2年が経ちました。転勤後1年目は住田町にあるそうごう薬局住田店で、2年目からは現在のそうごう薬局高田店で勤務しています。転勤当初は、初めての土地で右も左もわかりませんでしたが、気仙薬剤師会の方々をはじめとする様々な方にあたたかく迎えていただき、ようやく生活にも慣れてきました。

陸前高田は被災地ということもあり、薬局の普段の業務以外にも気仙薬剤師会の仮設住宅を周って悩みを聞くなどのボランティア活動や高田診療所薬剤部での休日業務、チームけせんの和や未来図会議の活動など様々な活動がありますが、そのような活動に参加させていただいて一医療者としてまた人間として非常に喜びを感じております。また、私のような外から来たものに対しても声をかけてくれる気仙の方々の懐の深さと「気仙をどげんかせんといかん」という熱い思いをひしひしと感じております。

現在までは、環境が変わったり様々な要因で落ち着かない日々を過ごしてきましたが、今後は少し落ち着き、余裕が出てくるのではないかと思いますので、今よりもっと積極的に様々な活動に参加していきたいと考えております。

私が所属するそうごう薬局高田店では在宅医療に力を入れております。特に御高齢の患者さんは薬の管理が問題となり、治療の障害となっているケースが多いと言われております。そのような場合、薬剤師が患者さんのお宅に伺い、必要に応じて薬を管理することで治療を成功に導くことができる可能性があり、また、余剰の薬がある場合はそれを削減することで医療経済の面でも貢献できる可能性があります。私たちはそのような場面に薬剤師として積極的に関わって、地域医療を支える1つの力になれたらと考えております。

今後は震災で崩壊してしまった陸前高田の医療を復活させるために、また陸前高田の復興のために自分ができることを考えつつ、普段の業務を行いながらみなさんと一緒に活動していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

### お仕事紹介



#### 訪問入浴 ～流れ～

- 1 看護・介護職と運転手が自宅に訪問
- 2 入浴前に看護師が血圧・脈拍・体温を測定
- 3 居室にて、浴槽にお湯を溜めて入浴準備
- 4 洗髪、入浴、爪切り、更衣、シーツ交換など
- 5 お湯を排水し、浴槽の丁寧な消毒と片付け

介護度が高く、通所できない場合に多く利用されています。

### ミニ知識

#### 住宅改修（介護保険認定者であれば1割負担で可能です）

改修前

- ・入口から12cmほどの段差があり、タイルで冷たく滑りやすい
- ・浴槽の淵が高く、またぐのが困難
- ・手すりがなく移動に不安あり

改修後

- ・動線に手すりを取り付け
- ・床にスノコを敷いて段差を解消
- ・浴槽に脱着可能な手すりを購入し取り付け



環境を整えることで、危険な浴室も安全に利用できるようになりました。詳しくは、担当の介護支援専門員（ケアマネジャー）にお尋ね下さい。

### 編集後記

昨年設立した「チームけせんの和」もやっと1年を経過しました。この間に数度の研修会や交流会を開催しましたが、常に50名を超える参加者がいたことから、「高田の医療や介護を頑張っている良いものにした！」という熱い心が見えました。H26年度は、石木会長も時間に余裕ができるので、この取り組みをさらに充実させていきたいと考えています。皆様どうぞよろしくお願いいたします。事務局 佐藤